



村内で出ている二酸化炭素量ってどのくらい？

村では、「第2次東海村環境基本計画」に基づき、“村内のどこからどのくらいの二酸化炭素が排出されているのか”を把握するため、毎年、二酸化炭素排出量実態調査を行っています。この計画では、基準年である2005(平成17)年から二酸化炭素排出量を25パーセント削減することを目標としており、令和2年度は皆さんの省エネ等への心掛けにより、28パーセントの減少となりました。しかし、今回の排出量の減少には新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う経済活動自粛の影響が含まれることが予想されるため、今後も引き続き、各家庭でできる省エネ行動や省エネ家電への買い替え等に取り組んでいきましょう。

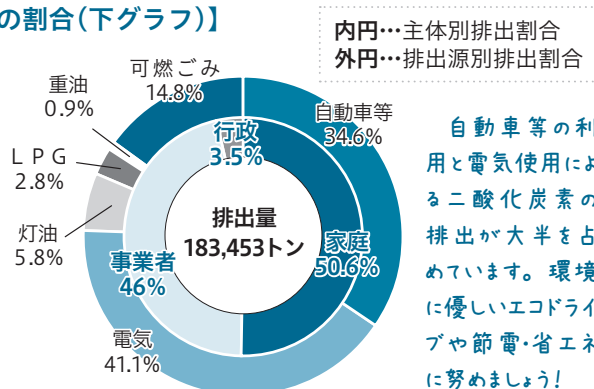
【問い合わせ】環境政策課環境計画・緑化推進担当(☎282-1711 内線1454)

【令和2年度 主体別・排出源別二酸化炭素排出量(下表)とその割合(下グラフ)】

(トン-CO₂/年)

排出源	主体	家庭	事業者	行政	合計
自動車等		33,996	29,378	87	63,461
電気		30,996	39,131	5,299	75,427
灯油		4,701	5,836	128	10,665
LPG		4,128	908	123	5,159
重油		0	1,658	0	1,658
可燃ごみ		18,975	7,384	723	27,083
合計		92,796	84,297	6,361	183,453

※各項目ごとに数値を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。



【気候変動への対策と「第3次東海村環境基本計画」】

■一年前倒しで新たな計画を策定

村では、「第2次東海村環境基本計画」に基づき、平成24年度～令和3年度の10年間を計画期間として、環境政策に取り組んできましたが、「東海村第6次総合計画」を踏まえた政策を推進するために、令和3年7月に、一年前倒しをして「第3次東海村環境基本計画」(令和3年度～7年度)を策定しました。

■持続可能な地域をつくるために

この計画では、これまでの計画で定めた「自然共生社会」「低炭素社会」「循環型社会」「生活環境」の4分野に加え、新たに「人材育成」の考え方を中心的なテーマとし、環境政策に取り組むことで、持続可

能な地域づくりを目指すこととしています。また、「低炭素社会」の分野では、2050年のカーボンニュートラル実現を視野に入れ、2030年までに地球温暖化の原因の一つである二酸化炭素排出量を基準年(2013年)度比で44.3%削減することを目指しています。

■一人ひとりの行動を見直して

これを実現するためには、行政・事業所等の取り組みのほか、各家庭における脱炭素化製品の普及や再エネ電力の普及拡大など、消費者の意識の転換が必要不可欠です。引き続き、省エネ活動や環境に配慮した製品の購入等に取り組んでいきましょう。



ご利用いただきありがとうございました

村公式アプリ「こちら東海村」でのお知らせ配信を終了します

村では、東海村公式アプリ「こちら東海村」を使い、村民の皆さんへ村からのお知らせを配信していましたが、情報発信に関するアンケートの結果や現在村が運用する情報発信媒体の役割を踏まえ、令和4年3月31日(木)をもって、アプリでのお知らせ配信を終了することとしました。

今後は、アプリと同様の機能(プッシュ通知：

自動的にお知らせを表示する機能)を持つ、「東海村公式LINE」での情報発信を強化します。まだ友だち登録がお済みでない方は、この機会にぜひご登録ください(右QRコードよりアクセス可)。



【問い合わせ】秘書広報課広報戦略・国際化担当(☎282-1711 内線1306)